

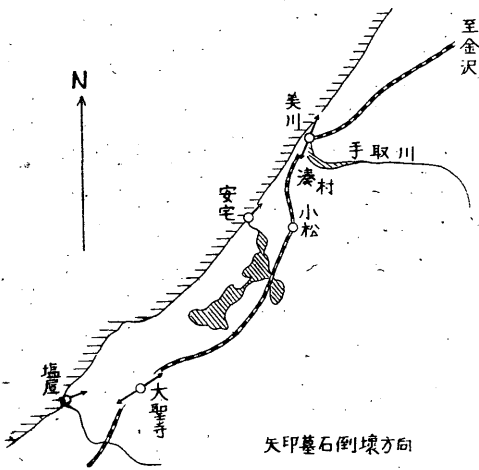
大聖寺沖地震踏査報告 (3)

金沢測候所 塚本 章・中山正喜

3月8、9日2日間美川町、湊村湊、吉田村吉原、根上町福島、同中釜屋、同道林釜屋、同山口釜屋、小松市安宅町、小松市、大聖寺町、塩屋村塩屋方面を踏査した。

美川町においては大した被害はなく、家屋の被害は外見では余り見当らなかつた。土蔵の破損したものの2ヶ所、外側の土蔵下の部分と内側の壁が大分落ちた(古い土蔵)。

子安寺境内の2、3の墓石が転倒、又安産川の橋が少し破損した(第2図、第6図参照)。

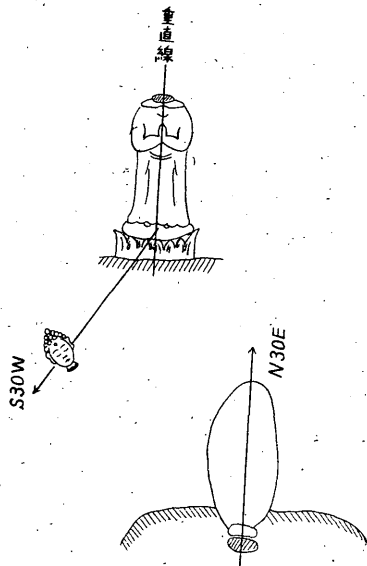


第1図 踏査地域及び墓石倒壊方向

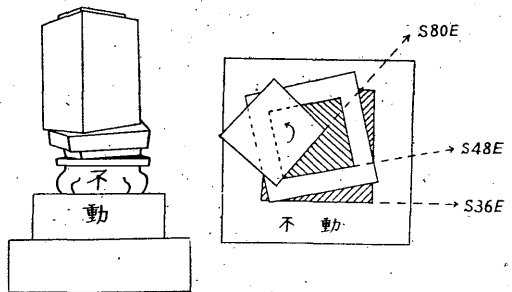
震度は中震で地鳴は西方より聞き、南西より「どしん」と感ずる初動があつたとの村人の話であつた。

湊村に於ては部落300戸余の内、家屋4、土蔵4が破損した。墓石の廻転(第3図)、小さな地割、泥水の噴出、家屋の捻れ(外見では良く判らぬ)、一部では地盤の落下があつた。

当部落は手取川の河口近くの石岸に位置し、南西部は砂丘地帯となつており、地割や噴出した場所は川の埋立地であるという事である。井戸は堀



第2図 美川町子安寺内の墓石、地蔵の首の落下



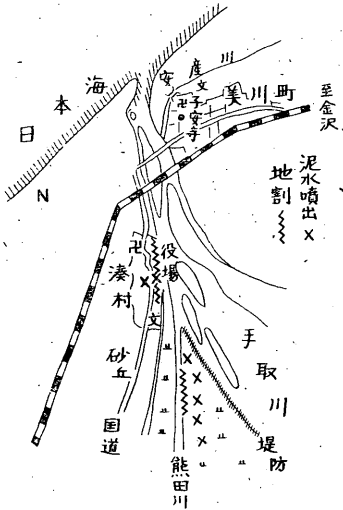
第3図 湊村の廻転せる墓石

抜井戸が多く（水は竹筒を打込み常時噴出している）、地割は部落の東側に見うけられる。これは深さ2m余りの崖にそつた道路の中央が3cm程の巾で南北に点々と50cm程続き、役場もこのため床が下つた。

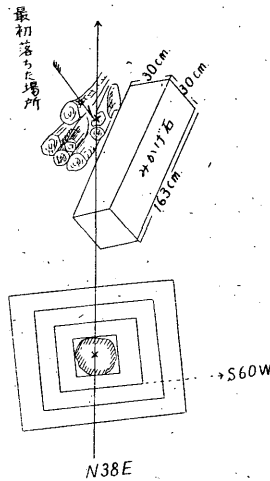
民家の床下から泥水が地震と同時に3分間程10cmの高さに噴出した。噴出物は青黒い砂質物である。

掘抜井戸の水量は地震前より半分位に減つた様である。

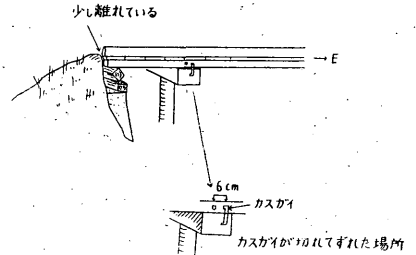
部落から熊田川にそつて南へ400m程川上の堤防上に幅2cm、長さ20m程の亀裂があつた（方向N70°E）。又手取川と熊田川との中間の水田から点々と川底の砂の様な青黒い砂質の噴出物があつた。又この水田が5、6cm沈下したものと如くに見うけられた（第4図）。地盤が4cm程下つたので屋根の峯が弓なりになつた家が1戸あつた。



第4図 美川町湊村



第5図 大聖寺町某寺の墓石転落



第6図 美川町安産川の土橋の破損

吉原、福島、中釜屋、道林釜屋、山口釜屋方面は異状なく、安宅町においては家の東側の壁が少し落ちたのが1戸あつた。

小松市内でも壁の亀裂が1、2あつたが、意外に被害少く資料にする様な物は見当らなかつた。

大聖寺町は墓石の転倒、家屋の破損、壁の亀裂がかなり多い（第5図）。

鹽屋では余り資料がなく、僅かに東北東に転倒した墓石が認められた程度であつた。